

平成26年度前期 京都市立桂中学校 学校評価を終えての分析等

□生徒評価アンケート（26年7月実施）回答数705名

- 1) 設問1「学校に楽しく来ることができた」において93%の生徒が「はい、もしくはどちらかといえばそうであった」と回答している。しかし毎年この場で述べているが、我々は逆に残りの7%の生徒が「どちらかといえばそうではなかった（42名）、そうではなかった（13名）」に着目しなければならない。「一人ひとりの子どもたちを徹底的に大切にする」本市理念に基づいて言えば、これら55名の生徒に対して、我々教職員がどのような関わり方をし、見守り支援しているのかの質を問われていると考えており、今後一人でもこれらの生徒数や比率が減少していくよう、さらにしっかりととした支援を考えていきたい。また、このアンケートに参加できなかつた校内で数名程度いる不登校生徒への対応も忘れてはならない。
なお、昨年度同期との経年比較では、上記比率はほとんど変化がなかった。（「はい、もしくはどちらかといえばそうであった」92%→93%）
- 2) 設問4「教科の授業は大切にしている」／設問5「教科の授業はわかりやすい」については、授業を大切にしている生徒が90%と高率である。若干2年生に落ち込みが見られるが、日常の授業の様子から考えると生真面目で自己分析で自分に厳しい生徒が多く、全般的には2年生特有の要素もあり、大きな心配は不要であると考える。しかし設問3に対しては、「わかりやすい、またはどちらかといえば・・・」の全体比率が85%で、少しずつ改善してきた感があるとは言え、我々はまだまだ授業改善、授業力向上に努力が必要であることが読みとれる。昨年度設問5については87%であったため、2ポイント減少したことを大切に受け止めたい。
- 3) 設問6「特にわかりやすかった教科」／設問7「特にわかりにくかった教科」（共に複数回答可）は、教員にとってはかなりシビアな設問である。自らの教科指導力が問われるからである。去る8月26日（火）学校評議員会、8月28日（木）の職員会議において、学校評価についての分析結果について校長から所見を述べたが、この2つの設問については、生徒が見た教員評価の一部であり、自分が担当している学年・教科の授業が生徒からどのような評価を受けているのかを知る唯一しかし最も重要な設問であるとの認識を示した。これらの結果が教員としての全体評価と同質のものであるとは言わないが、教員が最も大切にしなければならない教科授業で、生徒に「わかりにくかった」と高い比率で回答されている教科・教員はすぐに改善に着手しなければならないことは言うまでもない。「努力が足らない、なお一層授業改善に取り組むべきであり、各種研修会等への参加が必要」と指摘されても致し方ないことであることも、上記2つの会議で校長として意見を述べたところである。後期の巻き返しに期待し、必要に応じて個別の指導・助言を行っていく。
- 4) 設問14「仲間を大切にした」／設問15「自分自身を大切にした」は、14の仲間を大切にした割合が95%を超えており、学校教育目標の一言「心温かな」という目標に近づきつつあるとの感覚は日々大きくなってきており、大変楽しみではある。しかし一方で、設問15「自分自身を大切にした」は87%，いわゆる自己肯定感や自尊感情がやや低いかも知れないとの分析のもと、生徒会行事や学校行事、部活動、学級学年での居場所づくりなどの教育活動をさらに大切にし、さらに計画的・意図的に進めていく。なお、これら設問に関しては昨年度の経年比較においては大き

な変化は見られなかった。

- 5) 設問16「校長先生の集会などの話をわかりやすかった」か、という設問に否定的な回答が25%（述べ168名）もあったことは、校長自ら反省し、校長講話の質の向上になお一層努力したい。昨年度は否定的な回答は23%であった。

□保護者アンケート（26年7月個別懇談期間中に実施）回答数193名

- 1) 設問1「子どもたちは、楽しく学校に通っている」に対して、肯定的回答は94%であった。記述の生徒評価設問1の93%とほぼ同様の結果となっており、保護者も一定本校教育活動にご理解をいただいていると考えられる。
- 2) 設問3「子どもたちには、基礎的基本な学力がついてきている」に対して、肯定的回答が77%，否定的回答が23%であった。教員はこの回答比率が高まることを目指して日々の授業を中心に学習指導を行っている訳であるが、昨年同期の同設問の回答と比較すると、肯定的回答が68%であったことと比較すると約9ポイント上昇している。「確かな学力を身に付けた・・・」という学校教育目標に対して、ほんの少しづつではあるが、努力が認められていると思われる。実際、今年度に入って、学習の個別の支援が多くの時間を費やして盛んに行われていることからもうかがうことができる。
- 3) 設問4「子どもたちは、家庭学習をよく行っている」に対して、肯定的回答はわずか45%，つまり半分弱しかおらず、家庭学習は不足していると考えている。10月には3年生全国学力・学習状況調査の分析結果をお伝えするが、この中で、本校生徒は『学校が休みの土曜日・日曜日・祝日等の家庭学習時間が全国平均に比べて極端に少ない』（1時間より少ない・まったくしないという比率が全国平均32.5%であるのに対して本校は47.4%）というデータがあるが、そのことの裏付けともなる。学年によっては「週末課題」を出しているが、もう少し工夫と我々の努力が必要であると考える。ただ、昨年同期の同設問の回答と比較すると、肯定的回答が38%であったことと比較すると7ポイント上昇しており、見方によっては好転しているのかもしれないとも考えられる。
- 4) 設問5「家庭（保護者）に学校からの連絡・案内が伝わっている」に対して、否定的回答が21%ある。学校としては、ほぼ毎日のHP更新、月末の学校だより「天鼓の森」発行、各学年通信、担任によっては学級通信、部活動の遠征試合や月間活動計画表、授業参観や学校行事のご案内などなど、結構お知らせの頻度は高いと考えているが、保護者との意識の傾斜が見られることはとても残念である。学校側の勝手な意見ではあるが、案内プリントや学級・学年通信等がきちんと生徒から保護者に手渡っていない可能性が高いのではないかと思われる。余談ではあるが、本校PTA配信メールの登録率で考察すると、1回目登録案内プリントの呼びかけで登録された率が50%，同様プリント2回目で60%，3回目で70%という過去のデータがあるため、同じプリントを3回配布しても最大70%強しか保護者には周知できていないかもしれない。つまり約3割は子どもから保護者にプリント等が渡っていないのではないかと思う。保護者におかれでは、ほぼ毎日「プリント配布のない日はない」ので、帰宅後、お子たちには「プリントは？」と必ず尋ねていただきたい。

なお、昔も今も「子どもたちに都合の悪いプリント」はどこかの時点で消えてしまっている可能性があることも付記しておきたい。

- 5) 設問7「教室・廊下など、校内は整理整頓されているか」に対して、否定的回答はわずか3%（6名）であった。（昨年度5、3%）日ごろから、生徒・教職員が「校内をきれいにして大切に使う」ことの意識が一定評価されており、喜ばしいことであると考えている。
- 6) その他の設問に関しては、昨年同期の回答率と大きな差異は見られなかったと考える。

□教職員評価（26年7月中に実施）回答数41名

設問数68で、できている=○、できていない=×の2者択一のみの回答
(わからないやまあまあ=△などは認められない。)

- 1) (+) の評価面は、生徒指導で、設問40「生徒や保護者の思いや個々の背景を理解して、指導にあたるように心がけていますか」はいいえと回答した教職員は「0」名、また設問42「不安なことや気になることを見かけたとき、周囲と連携しようとしましたか」もいいえと回答した者が「0」名、設問43「情報交換を密にし、問題行動の早期発見、未然防止に努めていますか」もいえと回答した者が「0名」と、生徒指導等の場面では自己評価も高いことがうかがえる。しかし、個々の教職員の力量や意欲がそれなりに高まってきたとしても、個々の総体=組織の総体とはならないことを理解し、桂中学校は学習指導でも生徒指導でもその他すべての場面では常に「組織として」考え、行動していくことを大切にしている。その観点から考えると、まだまだ改善の余地や、生活面に課題がある生徒はもちろんのこと、日ごろはそのようなことはなくとも、すべての生徒に目配せ、心配りをするよう全校教職員が心がけている。当然、生徒・保護者・地域の方から見ても、不足している場面がたくさんあると思われる所以、どうぞいろいろな場面でご意見をお聞かせいただければ幸いである。（窓口は担任や学年担当が望ましいのは確かだが、兄・姉のときからつながりがある、あるいは部活動顧問など、話しやすい教職員にご相談いただくことは決してやぶさかではありません。）
- 2) 昨年度と経年比較する中で、顕著なことがらとして、「人権教育」への取組が、改善されたと教職員は評価している。今年度は夏季休業中の夏季研修会の中に、人権研修を取り入れ、講師の先生のお話に多くの教職員が刺激を受け、半歩前進できるかもしれないとの実感がある。学習につまずいた子どもたちの背景をきちんと理解し、決して生徒個人や家庭の責任にしてしまうことなく、私たち教員が強い責任感と意思を思って、絶え間なく指導にあたらねばならないことなど多くのことをも学んだ。学習や学力をつけていく責任は、ほかでもない「私たち教員である」のである。今後も引き続き、人権教育を広げる、深めるための学校としての取組を進めていくことを確認している。
- 3) しかし、ここまででも述べてきたとおり、生徒も教職員もより良い学校づくりと学校教育目標に向かってそれが努力てきており、学校組織全体としても一定成果をあげてきていると考えられるが、まだまだ「授業改善」や「授業力向上のための教員自身の考え方」に甘えがあることも否定できない。特に今年度は「思考力・判断力・表現力を高める」ための言語活動の充実を目指して図書館教育という手法を使って学校総体で取り組んでいるが、静かで落ち着いている授業=良い授業ではなく、質の高いわかる授業、あるいは今日的な課題である言語活動を学校のすべての学習

活動の中に積極的に取り入れているのかと問われれば、「目標は定まり一定前進はしているけど、まだ道半ば」であることに変わりはない。

- 4) 今後も「確かな学力を身に付けた心温かでたくましい人間力あふれる生徒の育成」という、ちょっと贅沢な学校教育目標に近づけるよう教職員一同研鑽してまいります。どうぞ引き続きみなさまの桂中学校へのご支援をよろしくお願ひいたします。

□学校評議員会での意見・評価（26年8月26日実施）議員数10名・出席者8名

- 1) 最近はパトロールで回っていても、地域は割と静かで、夜中も中学生が特に悪いことをしている様子はない。それよりも今は小学6年生3~4人が夜に公園で遊んでいることを心配している。
- 2) たまに学校に来るが、以前と比べると学校がきれいになった。また、この1~2年で子どもたちが元気になってきているように感じている。挨拶もしっかり出来るようになった。登下校を見守っているが、後ろからでも挨拶をしてくれる。教職員のみなさんが取組を進めてくれているその努力の成果があらわれていると思う。
- 3) 夜遅くまで頑張っていただくのは結構なことだが、教職員のみなさん自身の心身も大切にしてほしい。また、学校がうまくいっている時にこそ足元をしっかりとみて、特に若い教職員を育ててあげてほしい。
- 4) 学校では緊急連絡の対応として携帯メール配信の登録を勧めておられるようだが、防災の観点からも地生連のメンバーも加えてもらえないか。→今後検討していきます。

平成26年9月11日
京都市立桂中学校 校長 坪井 聰